

第1回日本臨床検査学教育学会学術大会

三村 邦裕*

第1回日本臨床検査学教育学会が平成18年8月23日～25日の3日間、東京都文京区にある東京医科歯科大学において開催された。副大会長を東京医科歯科大学の佐藤健次教授、実行委員長に香川県立保健医療大学の加藤亮二教授、副実行委員長に九州大学の澤 進教授が就任し、準備にあたった。第1回目ということで企画、準備等戸惑うところもあったが、実行委員長始め実行委員の先生方そして協議会事務局の献身的な働きにより、大きなミスや事故もなく成功裏に終了することができた。初めてのことで手作りの学会の感があったが、多くの先生方が満足していただき、次回への手応えを掴んだ次第である。

また厚生労働省と文部科学省から後援名義をいただいた。このことはそれまでの47年間にわたる協議会の活動が認められたもので先輩諸氏への感謝の念に絶えない。

今大会のメインテーマは『知の研鑽－臨床検査技師の進むべき道とは－』であり、臨床検査技師教育に関わる様々な問題点について問題提起がなされた。演題数は一般演題56題、学生演題16題の計72演題、そして参加者は350名余りであった。パネルディスカッションでは『臨床検査技師教育における臨地実習の役割』という内容で、一般病院、私立大学病院、国立大学病院の技師長がパネリストとなり実習の問題点や将来に向けての臨地実習のあり方などが論じられた。記念講演は元日本臨床衛生検査技師会会長(現 西武学園顧問)の佐藤乙一先生から『臨床検査技師法改正経

緯と将来への期待』という演題で衛生検査技師法誕生からその後の幾つかの臨床検査に関わる法律改正の解説が行われた。我々が知り得ないような裏話をお話していただき、今ある臨床検査技師は先人達の大きな努力によってあることが理解できた。特別講演は放送大学教授(東京大学名誉教授)の宮下充正先生に健康と運動の関係についてご講演いただいた。高齢化社会を迎え、脳を活性化し健康寿命を延伸するためには運動が必要であることを解説いただいた。

このように第1回目は初めての学会にも関わらず多くの先生方にご協力いただき、終了することができた。このことは先生方の臨床検査技師教育への熱い思いの結集と考えている。今後永年にわたりこの学会が存続し、新たな発展を期待し、医療にそして社会に貢献することを願うものである。



第1回日本臨床検査学教育学会学術大会

*千葉科学大学 危機管理学部 kmimura@cis.ac.jp